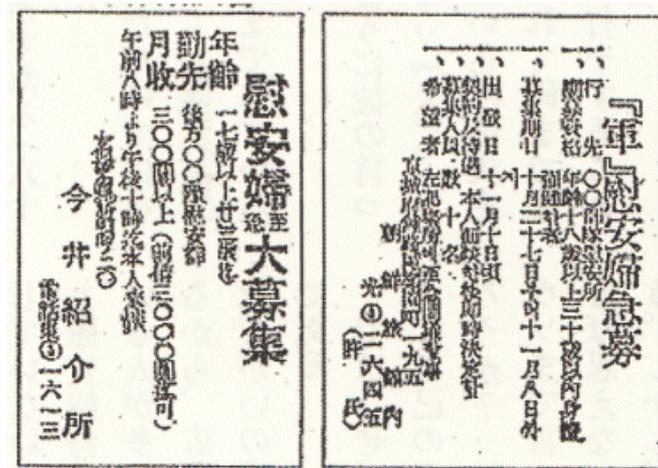


付属書

(注：提出文書には新聞名、日付、タイトル、概要等、内容が分かるように英文で付している。)

図 1



桃色の巢を衝く

聯絡係の娘に良心の目覺め

名士の假面を剥ぐ

十二日、原宿本町に假れ切つた別荘に少女が駆け込み泣きながら救ひを求めたので、準備を聞いて見ると、意外にもこの少女の背後に大規模の桃色の魔窟が存在してゐることが判明した。右の少女は京成岡村町二百六番館福留時子の方屋女給連社で、昨年三月同家に女中として住込んだが、主人

娘は女ながらもしたまふ者で、京成府内のデパートガール、寶島女給連社など華人娘十六名を擁護し、同社と共に會社費など一課人士に控らせ、自宇をアデトに照供、右の女を彼らの魔窟の相手に世間して競争から世間を取ら、これが魔窟には前記の女中を借用してゐるものである。その強弱關係の図は感得すると

共にこの醜態を激しく不安を感じ奔走を企てたが、密に窺見され以て其苦痛を分たす換る敵の魔窟を受けついに堪へかねて十二日本町に救ひを求めたのである。同社では既に娘を止め、味を強引、且、敵軍中であるが、取調への魔窟とともに京成の魔窟の全貌が剥き出されるものと見られてゐる。

農村の娘に毒牙

巧みに誘拐しては賣飛ばす
恐るべき全貌判明

誘拐事件はその後、朝鮮方面ならびに釜山に誘拐されて来た十二名の娘につき、調査を進めてあるが、原簿の発行につれて事件はますます擴大し、北支、朝鮮方面に誘拐はされた娘は百人を突破するところにあるに至り、府内各県では、最近相次ぐ誘拐事件と報告して、事件を重大視し、即座に密着して捜査することにも、同様の密着捜査に着手となつてゐるが、たゞ、事件によつて露出された誘拐態と無行に、保身も、警察となり、社会問題として、一瞥に大きな不安を興

へてゐる。被害者の大部分は今回到阪せず、大多数が朝鮮地方の農村の郷で、主として養女と置けると言ふ。養子、養女を偽造し、中には無料や差入れなどの手段によつて、無法な人身賣買が行はれてゐるもので、最近この種の行爲を暴露するものがあり、原簿は、同簿で判明するに至り、原簿は、同簿では香取と報告これが結果を露することとなつた。

「大阪朝日新聞・南鮮版」(1939
昭和14)年3月30日付)

一家總掛りて 農村の娘を誘拐

十二名監禁中を逮捕

さきに京城東大門署で検挙した大誘拐事件を契機として府内各署で同様事件を探索中のところ果然と
のほど西大門署に被害者五十人と
見られる誘拐事件が橋本に擧げら
れた、京城府老姑山金奥萬(おき)は
一家五人で共謀、四年前から全蘇
各地の農村家庭から貧女にすると
稱して娘を譲り受け滿洲方面に賣
飛ばしてゐたこと發覺、西大門署
では時を移さず二十六日金奥萬ほ
か一名を逮捕したが、他の三人は
隙を食つて逃走したので同署で追
及中

なほ檢査當時十二名の娘を監禁
してをり、同署では被害者は少
くとも五十人には上るものと見
て引續き取調中

『大阪朝日新聞・南鮮版』(1939
〈昭和14年〉年3月28日付)

が急務であると思ふ、そして日
滿に協力一致して興亞建設に邁
進するため相互の貿易取引増進
に努力したいと思ふ

貴婦人装ふ誘拐魔

男女四名を手下に使いひ

全鮮から小娘廿八名を誘拐

京城府内の周旋屋を轉々巡視しに誘拐した娘の周旋料を盗いでゐた魔の手が、朝鮮國に轉移され府内の周旋業者を續々石換取給へ中であるが、首魁は慶尙北道蔚山府李權順(妻金順順)と稱して

同人は夫を捨て、京城に出奔、美貌の同女は市に賣婦人を装つて、備天大邱南山町李鎮玉(通稱)ほか四名の男女を使つて、昭和十年十二月二十一日大邱驛の待合室から連れ出した大邱生れ李斗順(當時十七年)ほか全鮮にわたり

小娘二十八名を誘拐、首魁自ら京城府内の周旋屋に出役、小娘を應雇しに轉々して、前記李斗順ら最初十五圓で黄金町某に賣られた身代金は、二十四圓目の最後の周旋屋で百五十圓に賣られてゐた

図 11

